

「みんなの未来」を一緒に描こう

宮城県小学生プログラミング大会

12チームが創造性豊かな作品を発表



表彰式後の記念撮影でにこやかな表情の出場者



最優秀賞
清水建設賞

献立提案Webアプリ「作ってみーな！」

常見 胡桃さん

宮城県は14年連続でメタボ率が全国ワースト3位以内ということと、食品ロスにも着目し、直接廃棄につながりやすい冷蔵庫にある食材を使って、メニューの提案を受けられるアプリを作りました。使いたい材料を選んでカロリーを指定すると50種の中から最適なメニューを紹介してくれます。チェックボックス表示がうまくいかないなど、制作が大変でした。

大会出場者(発表順)

小松 慶之介さん 仙台市立東二番丁小学校 6年

LINK (リンク)

佐竹 軌哉さん 仙台市立上杉山通小学校 6年

サギ シミュレーター

小森 駿ノ輔さん 仙台市立松森小学校 4年/ASTER

音楽で遊ぼう

菅原 航さん 仙台市立東長町小学校 4年

身近なSDGs発見!

本間 裕子さん 仙台市立大野田小学校 4年/ASTER

占いゲーム

常見 胡桃さん 美里町立青生小学校 6年

献立提案webアプリ「作ってみーな！」

チームよこのすけ

森 鷹之介さん 仙台市立木町通小学校 6年

森 孔之介さん 仙台市立木町通小学校 3年

人にやさしいマンション配達ドローンシステム

矢端 千佳さん 大崎市立古川第三小学校 4年

コロナ禍の重症患者とのコミュニケーション用アプリ

梅津 智希さん 仙台市立向陽台小学校 5年

みんなの未来を明るく

鈴木 禾乃さん 仙台市立中田小学校 4年/ASTER

サファイヤあるかな?

赤川 歩さん 宮城教育大学附属小学校 1年/学心舎

ザリボット
~水陸の両刀のワフル生物・ザリガニのロボット~

菅野 拓志さん 仙台市立木町通小学校 2年/学心舎

ロボカブト ~虫はともだち

八木山キャンパス探検ツアー

午後は出場者とその家族を対象に「八木山キャンパス探検ツアー」があった。昨年9月に竣工した「実験・教育棟Tech-Lab」などを見て回った。

構造材料実験室では万能試験機で鉄を引っ張る実験を見学。表面の黒さびがぼろぼろと剥がれ、切断の直前ではその箇所だけくびれが生じ、甲高い音とともに鉄は上下に割れた。

水は波と一緒に流れているのかを調べる実験では、ビーズを波打つ水面に落としてただただ漂っているだけ。教員からは「海には波と流れの二つが存在する」との話があった。

小学校とは全く異なる雰囲気子どもたちは興味津々の様子。デジタル創作工房にも足を運び、レーザーで文字を焼き付けて木札を作る作業の見学も楽しんだ。



万能試験機の説明を聴く参加者



波を作る実験装置に興味津々の様子

ICT(情報通信技術)教育が始まった20年度にスタートした本大会は、今年で4回目。最優秀チームは、2025年度入学者選抜の大学入学共通テストに、プログラミングや情報リテラシーを扱う「情報」科目が設けられる予定だ。小学校でプログラミング

として出場者とその家族を対象に、八木山キャンパス探検ツアーも行われた。開会あいさつで、河北新報社の今野俊宏常務は「地域課題の解決や社会参加につながるような作品が寄せられた。出場して楽しかったと思えるような大会に

「みんなの未来」をテーマに、宮城県小学生プログラミング大会2023が11月19日、仙台市太白区の東北工業大学八木山キャンパスで開かれた。子どもたちに柔軟な発想でコンピュータのプログラミングを楽しんでもらうのが狙いで、全国選抜小学生プログラミング大会宮城県予選を兼ねる。事前選考を通過した12チームが出場。最優秀賞・清水建設賞には美里町の常見胡桃さんが輝き、東京で来年3月開催の全国大会に出場する。

審査全体講評

想像力生かして取り組もう

東北工業大学 工学部電気電子工学科 教授
室山 真徳氏



テーマに対する内容が良かった。これからも想像力を生かし、みんなの未来のためにプログラミングを活用してほしい。私たちの身近なところでプログラミングは使われています。与えられるものではなく、自分で考えるプログラミングが大切。コンテストの出場は自分を高めてくれます。これからもプログラミングを楽しんでください。

閉会あいさつ

夢や目標を持って挑戦を

東北工業大学 教授、副学長 建築学部 長
石井 敏氏



限られた時間の中で、自分の言葉での発表は素晴らしかった。家でただやっているだけでは単なる趣味。作品を通じて自分の思いを発表し、知ってもらうことが社会を変えていく第一歩です。夢や目標を持って挑戦する過程はとて大切。皆さんは未来のエスキース(下絵)を描いてくれました。来年も会えることを楽しみにしています。

「行動で未来変わる」

発表は1チーム3分以内。4人の審査員が発想力40点、表現力と技術力が各30点の計100点で評価した。作品はSDGs(持続可能な開発目標)、特殊詐欺、コロナ禍など社会性のあるもの、ロボットやドローンの活用といった実用型、ゲームとして楽しめるアプリなどバラエティーに富んだ。1チーム以外は個人での出場で、大会初となる1年生の出場者もいた。子どもたちは緊張しながらも制作理由や使用素材、操作法などを元気に発表した。審査員や来場者は興味深く発表に聞き入り、保護者も期待と不安が入り交じりながら、わが子の姿を見守った。

発表後は審査員からの質問に作品の意図や制作時の苦労、動作の改善点について答える場面も。選択次第でハッピーエンドとバッド

エンドの二つの結末がある作品を発表した出場者は「自分たちの行動次第で未来が変わることを示したかった」と話した。ドローンの活用で、審査員から実用化の課題を問われた出場者は「搭載物の重さが原因のルートや着陸点のずれをなくしたい」と答えた。

審査の結果、最優秀賞・清水建設賞は常見胡桃さん、優秀賞は矢端千佳さん、優良賞は「チームよこのすけ(森鷹之介さん・孔之介さん)」、審査員特別賞は小松慶之介さん、佐竹軌哉さん、菅原航さんに決まった。

常見さんは2年連続の最優秀賞で、前回はチームで参加した。1人で不安だったが、集中して作りたいものを作ることで面白かった。現状では検索結果が50件しかなく、該当メニューはありませんと表示されないよう、もっと増やしたい」と張り切っていた。

◎大会概要
主 催/河北新報社、東北工業大学、全国新聞社事業協議会
後 援/文部科学省、経済産業省、総務省、デジタル庁、宮城県、宮城県教育委員会、仙台市、仙台市教育委員会
協 力/株式会社共同通信社、仙台南高等学校
特別協賛/清水建設株式会社